

## ● 姉妹都市サクラメント市を中心とした 観光資源活用について

団員 松井 宏治

観光資源活用というテーマにもとづき、訪問をした3都市（サクラメント・ロサンゼルス・サンフランシスコ）の取組みについて報告する。なかでも、年間1,500万人の観光客が訪れるサクラメント市の手法を中心に紹介したい。

サクラメント市は人口46万人で、カリフォルニア州の州都であり、経済ではなく、政治・行政のまちである。それほど古い歴史があるわけではないが、19世紀中ごろゴールドラッシュにわき、その歴史・文化を感じさせる観光施設である「サター砦」や「オールドタウン」、そして「鉄道博物館」といった観光客が好むような見どころも確かにありはする。しかし、サクラメントの町の中



（マイケル・R・テスター副社長）

中に、世界遺産や自然遺産といった世界的に有名な観光施設はなく、また、経済・商業都市でもないためリゾート感覚の町でもない。それにもかかわらず、年間1,500万人もの訪問者が訪れる理由を、サクラメント観光局のマイケル・R・テスター副社長から教えていただくことができた。

サクラメント観光局の機能・役割は大きく2つあり、1つはコンベンションセンターとしての案内所としての機能、そしてもう1つはバジェットと呼ばれる税金を集める役割の2つを担っている。

1つ目のコンベンションセンターの案内所としての役割とは、具体的にはサクラメントにあるコンベンション設備のアピールを対外的に行うことであり、これらの情報提供・宣伝活動を行っている。

実は、毎年、サクラメントを訪れる1,500万人の訪問者のほとんどすべては、いわゆる観光客ではない。企業の研修や表彰式、あるいは大きな団体のスポーツや音楽イベント、さらには結婚式など、さまざまな利用者が訪問して

いるが、これらの訪問者は偶然によるものではなく、この観光局が積極的に誘致を行った努力の成果であった。観光局としては、年2回ビジターズガイドを発行し、その内容は、オンラインでも見られるよう各種団体へアピールしていた。つまり、サクラメントにはどんな会議室やホールがあるのか、それはどの程度の人数を収容できるのか、また、空港やホテルはどれだけ便利な場所にあるのか、さらには、年間を通じた気候や降雨量の情報なども情報提供していた。最大で12,000人を収容可能なスペースがあるコンベンションセンターは、さまざまな規模のイベントに活用できるだけでなく、気候の良さや各地から集まりやすい立地をアピールすることで、夏場を中心にアメリカ国内を中心として1,500万人もの訪問客があり、それによる経済効果は、年間2,000億円にもものぼる。そのうち、いわゆる観光のみの訪問者は、たったの5%だけである。松山市としても、観光客のみならず、企業旅行の地としてもアピールを始めたところであり、これらのコンベンションへの取り組みは非常に参考になるものであった。

そして、観光局としてのもう1つの役割であるバジェットについてもふれておきたい。例えば、サクラメント市以外から来た訪問者が市内のホテルに宿泊すると、ホテル料金の約12%に当たる税金を支払わなければならない。この12%のうち、観光局には3%が直接の収入となり、これをバジェットと呼んでいる。



(観光局の取り組み等質問)

残りの9%の大部分はサクラメント市の税収であり、まちの整備や消防・警察などの運営に活用することができる。つまりこれは、サクラメント市にとって純粋な外からの収入となり、観光客が増えれば増えるほど、まち全体の経済効果が期待できるだけでなく、直接的な税収アップにつながる仕組みとなっており、工夫をこらしたコンベンションセールスや各種団体へのコミュニケーションを積極的に行う原動力となっていた。

以上が、大まかなサクラメント観光局の役割の概要であるが、第3次産業を

中心とした松山市としても、観光施設をアピールする手法だけでなく、企業研修・コンベンションのまちづくりを推進し、訪問者が年間600万人を超えるよう個別具体的な取組みへのヒントを感じることができた。



(ヨセミテ国立公園)

次に、サンフランシスコ市内から車で片道4時間、約300キロメートル離れたヨセミテ国立公園について報告したい。

ヨセミテ国立公園は、カリフォルニア州の東側にそったシエラ・ネバダ山脈の高い山々に囲まれた場所に位置している。セオドア・ルーズベルト大統領によって1890年に国立公園に指定されたアメリカ屈指の国立公園であり、その広さは、東京都の約1.4倍の大きさである。まさに雄大な絶景であり、年間400万人もの観光客が世界各地から訪れる場所である。白い岩の絶壁や落差760メートルの滝など、シエラ・ネバダ山脈に広がる風景は、アメリカの国立公園の発展において、中心的な役割を果たしてきた。

このようなスケールの陸の国立公園は、日本には存在しないかもしれないが、松山市には瀬戸内海国立公園がある。瀬戸内海国立公園は、昭和9年に雲仙や霧島とともに日本で最初に国立公園として指定された場所で、平成26年には80周年を迎える。現在の国立公園の範囲は1府10県にまたがり、海域を含めると国内でも最も面積が大きい。大小1,000余りに及ぶ島々で形成された内海多島海景観であり、中国山地と四国山地に挟まれた地理的条件により、年間を通じて温暖・少雨な気候である。現在、松山市では「瀬戸内・松山」構想をきっかけ、広島地域とも連携し、広域的な取組みを行い、「瀬戸内はいくらず」など瀬戸内をテーマとした旅行商品などもPRしている。平成26年の瀬戸内海国立公園80周年に向け、国立公園に力を入れているアメリカの取組みを生かし、今後の瀬戸内の活性化へ向けて努力していきたい。